

Circle for Elegant Ski 2010

spur



はじめに



こんにちは、渉外部長の渋井です。題名の「Spur」はドイツ語で「軌跡」という意味で、雪面上につく自分の滑ってきたスキーの跡のことをいいます。

実はこの「はじめに」って、面倒で省こうとしてたんです。でも、みんなの Spur 読んだったら書きたくなっちゃいました。ここには Spur の名の通り、部員みんなの一年の軌跡を振り返っての思いが詰まっています。エレで私が一番乘りに読ませていただいたわけですが、読んでいて、これだけたくさんスキー大好き人間が集まってるって、やっぱりエレはいいなあ～、とってしまいました。

人数も増えて、目指すところも高くなって変わってきているエレだけど、ひとりひとりの気持ちは変わらずひたむきにスキーと向き合っていて、すごくうれしくなりました。

部員みんなの思い、ぜひ読んでください！

2011年6月16日
第44代 執行部 渉外部
渋井 宏美

無題

第44代会長 細目 智彦

まず、こんな頼りない会長を支えてくれた、野口、石橋、京谷、小林、紺野、田中、栩兼、衡田、牧野、李に感謝したい、本当にありがとうございました。そして、迷惑掛けてばかりですみませんでした。

さて、偉そうにつらつら書くのは気が引けるのだが、いくつか書いていきたい。

《全体、岩岳》

今年の目標として掲げていた岩岳の男子総合優勝を、21ポイント差で達成することができなかった。その結果は非常に悔しかったが、岩岳がはじまるまでは正直ここまで戦えるとは予想していなかった。部内戦や岩岳に臨む姿勢はより厳しく、競争的になったものの、出場枠を確保したAチームの15人の中でのレベル差を縮めることができた、という実感が得られなかったことが一番大きいと思っている。特に、今年なら15人中6人が3年というように、Aチームの戦力の中心は3年であり、まずそこを底上げしていくことを第一に考えていくべきではないだろうか。今年は師匠のローテーションを導入し、師匠として教えるだけでなく、先輩に滑りをチェックしてもらう機会を設けたが、一貫性があまりなく、効果ははっきりと出てこなかったと感じている。どのような形であれ、岩岳で優勝するという目的だけでなく、執行部のレベルアップは重要であり、言葉は悪いが、1・2年生のレベルアップのためではなく、まず執行部の実力を向上させるため、執行部のメンバーそれぞれが自分が上手くなるためのシステムを常に考え、実行していくべきだと思う。それができれば、結果的として師匠の質を向上させ、1・2年のレベルアップにつながり、われわれよりも層の厚い、ライバルに勝つことができるだろう。

《師匠》

まず、2人の弟子が岩岳の出場枠を獲得し、岩岳でしっかりと結果を残したことに安堵している。公式練では、基本的に自分自身のための練習を中心に組み立てていったが、ついてきてくれて感謝している。

弟子たちは、今年の成績には、満足など当然していないだろう、来シーズンは師匠という立場から学べるものは学び、自分の滑りを向上してってもらいたい。期待している。

《個人》

今シーズンは、かつてないほど滑走日数を確保することが難しく、練習できるのは外部講習と公式練の日だけと、講習の復習すらままならなかったのが悔やまれる。岩岳では、表彰台まであと一歩であったが、一本も納得できる滑りができなかった。総滑とコブでは一ケタ台に入れるものの、他の種目は20位以下とばらつきとミスが目立った。特に、メインでつかんだ小回りの感覚を定着する

ことができなかつたことが大きい。いい加減、総滑のクイックで点を取るのはやめたい笑

もうひとつの目標であった、ロングを乗り越なすことは達成でき、朝里でもロング系の種目では成績を残せたので、来シーズンにつなげていきたい。

来シーズンは、最後の岩岳で個人戦で表彰台に乗ること、北海道予選で決勝に行くことを目標に取り組んでいく。

最後に・・・

表彰台の上で味わった、あの悔しきは忘れられない。ホワイトプラザに北大エレガントスキー部の名前を残すことができなくて、悔しい。クリスタルトロフィーで酒を飲めなかつたことも、悔しい。

これほど悔しい、勝ちたいと思ったことはなかつたし、そこまでそんな感情がこみあげてくるとは、思ってもみなかつた。

表彰式で、感じたものは人それぞれだろう。ただ、「勝ちたい」という気持ちを部員に持たせ、尻をたたきただけでなく、目標に向けて動かしていくのが執行部の仕事だと思う。

来シーズンこそ、クリスタルトロフィーで美味しい酒を飲むべ！！

第44代副会長 野口 雄平



未提出

『課題のシーズン』

石橋 秀規

今年も、岩岳大会、朝里大会を無事に終え、総会を終え、エレは新たな年度を迎えた。去年1年間は、執行部としてエレガントスキー部を引っ張る立場であったのだが、どうだったろうか。

執行部を終えてつくづく思うのだが、嘗てから存在していたルールというのは現在にそのまま当てはまるのだろうか。そうは思えない。時代が変わるにつれ、環境も変わり、それに伴う規定の変化は当然あるべきであろう。去年において、この『規定の変化』で最も大きな物は、岩岳大会での2チーム出場であると思う。

エレガントのマンモス化は『岩岳大会個人戦には最大15名しか出場できない』という岩岳のルールと相容れない。常識的に考えて、下級生、特に2年生は選手として岩岳に参加できる人が少なくなる。これでは、エレの最大の目的の1つである、『スキーを楽しむ』という点において影を落とす。その対策として、Bチームを出したかった。しかし、デメリットもあり、Bチームには競争がないのである。Aチーム登録した者は必死で練習し、上位15名の枠を勝ち取ろうとする。が、Bチームは登録数が既に15を切っており、必ず岩岳に出場できるのだ。もう1つのエレの最大の目的、『技術向上』はこれに反する恐れがあった。このようなジレンマがあり、2チーム出場は吉と出るか凶と出るかはわからなかった。しかし、終えてみれば、Bチームメンバーの技術もそれなりに向上した選手もいた。(結局、Bチームに登録してもやる気、競争力をキープできればいいのである。)決して悪くなかったと思う。これは、後世に置き土産であろう。

次に、反省点としては、師匠、弟子制度である。エレの巨大化は根本的にこの制度を変えるべき点にまで至っていたと思う。しかし、行ったのは『1年生に師匠を2名つける』というマイナーチェンジ。結果的にこれもそれなりに好評であったようであるが、この場しのぎであったことは隠せまい。今年の執行部にはガラッと変えることも視野に入れてほしい。

さて、自分自身についてはどうだろうか。つまり、スキー技術に対してなのだが、はじめはよかったのだが、徐々に悪くなるという、非常に後味が悪いシーズンだった。シーズン中盤、札幌予選や選考会あたりが去年の(相対的な)ピークで、重要な岩岳大会、朝里大会では自分の滑りをビデオ見るのが本当に嫌だった。

特に、朝里大会は見るに耐えられないくらいひどく、封印したい。P.V.を作りながら、『なんでこんなに下手なんやろう。』と自暴自棄になっていた。

本当に不調なのか、それとも燃え尽き症候群なのか、ただ単に下手になっただけなのか。『違う。これも違う。動きが堅い。あ。ずれた…』そんなことの繰り返しである。

もう1つ。大きな課題がある。

岩岳の予選ではそれなりの成績であったが、次の日からふとダメになった。これを考えていて、一番大きな原因はメンタルだろうと思った。予選では栩兼をサポートに指定した。栩兼から得られるアドバイス目的というよりは、自分よりもうまい人がサポートにつく、それだけで大きな安心感にな

ると思ったのだ。その結果、予選ではそれなりの成績を修められた。そのままいい感じで次へいき
たかったのだが、そうはいかずに調子は急降下した。それに反して、自分の師匠はほぼ練習にも
来ずに、100位以内をとっていた。やはり師匠はすごいのだなあと感じてしまった。

そのメンタル面の弱さをさらにはっきりさせたのが朝里大会予選である。朝里ははじめからかなり
調子が悪く、全くと言っていいほどいいパフォーマンスができていなかった。その中で、『決戦に出
る』という絶対目標が段々プレッシャーとなっていたのは言うまでもない。


予選4種目中3種目が終了した時点で予選突破はグレーゾーンだった。最終種目、イエロー
小回り。予選さえ通らないかもしれないというプレッシャーで、スタート前から『こける気がする』とか
『ずれる気がする』とかかなりネガティブになっていた。そんな状態でスタートするから当然結果は
ついてこない。最終的にはなんとか決戦までいけたのだが、朝里で行った全11種目中、自分が
(まだ)まともな滑りができた物はオレンジ不整地小回りの途中唯一である。最後の大会でこのような
感じになってしまい、これ以上ないくらい残念であるし、悔しいし、情けない。

来年、大きなテーマはまずメンタル面。そこから大会に照準を合わせ、調整を行うことである。こ
んなことが4年の目標でいいのかと正直思うのだが、できていないのであるから止むない。そして、
具体的、技術的目標としてはやはり『谷回りの見せ方』であろう。切り替えでの体の向きや、荷重配
分、それに伴って、重心移動、その方向と移動距離も重要だと思う。コブでは、基本ポジションを高
くし、トップをコブに沿わせるような滑りを目指す。そんな訳で、具体的な目標。道大会予選突破。

なんだか暗い内容になった。正直、自分はスキーがそんなに好きという訳ではなく、何となく始め
て引くに引けない状態で4年目に突入する。ただ、エレにいることは楽しく、口うるさい先輩も、意
味不明な後輩も、そして何かと喧嘩が多い(ような気がする)同輩も自分にとってはすごく大切な人
たちである。それが唯一とっていいだろう、エレを続けられた原動力であると思う。本当にありがと
うございます。

なんだか遺書っぽくなった…。その流れで執行部へ言いたいことを。先に書いたことと被るのだ
が、既定のルールをどんどん変えていってほしい。3度の叩き合い、総会で上級生が言っていたよ
うに、2011-2012年のエレガントスキーを作っていくのは、3年生のみんなである。それぞれが現
状を理解し、求められていることを感じる事が大切である。こう書くと難しく感じるが、実は単純なこ
とで、『もっと皆が楽しめるサークル。もっと強い部』を目指せばよいのではないだろうか？手段はや
っぱり難しいけどね。

近年、エレは一体感が増してきていると思う。それに伴って成績も上がってきた。そして、全国の
頂まであと1歩まで迫っていると思う。その1歩をお上品に歩む必要はない。スライディングのよ
うな感じで滑り込んで、岩岳に『エレ・フィーバー』を起こしたい。これは密かに抱いている野望であ
る。



【仕事について】

まず、執行部だった同期のメンバーにいろいろと迷惑をかけてしまったことを謝りたいです。自分が執行部ではないという立場から、特に最初の方は積極的に参加しなかったことはすみませんでした。また、シーズンに入ってから執行部ミーティングに参加したときにはいつもうちの遠い田舎まで送ってもらって、そして紺野もいつも泊めてくれてありがとうございました。本当に同期には申し訳ない気持ちと感謝の気持ちばかりです。

そして、自分はたいした仕事はしてないのですが、3年間ずっとしてきたことといえば、ホームページでしょうか。ホームページの立ち上げから運営をするにあたって、いろいろと失敗したり、仕事が遅かったりしてみんなに迷惑をかけてすみませんでした。また、堤さんには何度も泊り込みでホームページの技術的なことを教えていただきお世話になりました(実際、ホームページの話よりスキーやエレの話ばかりしていた記憶しかないですけど笑)。おかげで、連日たくさんのアクセスがあり、部員や新歓の役に立っているのはホームページ係としてはうれしい限りです。これからも遠藤やブログ系の頑張りでもエレのホームページを盛り上げていっていただきたいと思います。

【シーズンについて】

今シーズンで、まずうれしかったのは個人戦の枠を取れたことです。確かに14位といい成績ではないものの、去年出られなかったことと年々激化するエレの個人戦選考会であることからすれば、純粹によかったと思います。

しかし、団体練で肩をはずしてしまったのはせっかく団体の枠が自分にまわってきて出場できることになったのに残念でした。そして、なにより一番悔しかったのは岩岳個人戦で自分があと少し上位であればエレが優勝できたのにということです。岩岳決戦では、もともと上位の人がさらに上位に上がるより、下位である自分が逆転する方がはるかに容易にポイントを獲得できたのに、それができなかったのは悔しいとか情けないとかという気持ちで一杯でした。

このように今シーズンはうれしいという思いはあったけど、一方で悔しいという思いもありました。ただ、そういう思いがあるのも、努力でき、またスキーを楽しめたからなのではないのかなと思います。そして、師匠として多少は弟子の成長に貢献できたのもよかったです。ということで、今シーズンは良くも悪くもとにかく充実していました！

「3年生おわり！！」

小林すみよ



[学連]

議長やってきました。学連ってきくとみんな「うわーやりたくねー」って思うことでしょう。私も3年になる直前はそう思っていました。確かに、ほとんど週1回は会議だから他の人よりバイトは出来ないし、イベントは全部参加だから土日がつぶれることもたまーにあって、しかも大会中はお仕事でひいひい言ってたし。大変だったなあ。

けど、スキー場で他大の先輩後輩、なにより同輩に会ったときに「お疲れ！！」って言って、色んなことしゃべれる、そういう充実感はハンパ無かった。とくにオーズなんかそこにいるスキーヤーのほとんどが知り合いついていう日もあって。楽しい1シーズンを過ごせたと思う。来シーズンも、その次のシーズンも、その先も、そんな仲間とスキー場で会えるのかと思うと、学連やっててよかったなって思います。えへ。

あとは、学連としてエレの10人くらい？を合同合宿に引っ張りだすことが出来たのも凄く嬉しかったです。結局合宿は中止になっちゃったけど・・・(;ω;)

みんな来年も参加してね・・・

[個人的に]

執行部は想像通りきつかった。うーん。責任がとても重かった。

けど私は執行部内では会議を進行する以外仕事はなかったから、他のみんなよりは楽だったのかも。

あとなぜか叱り役になってしまいました。遅刻しまくったり、だらしない態度の後輩たちには特に厳しく叱った気がします。それは私が1年のときの執行部がそういうことに厳しかったからだと思うんだけど(遅刻した人に対する T 野さんの形相は涙が出そうなくらい怖かった)。そういう厳しさはこれからも大事にしていって欲しいです。ぜひ。ちなみに私はエレの公式行事に三年間無遅刻だったよー！！四年目はとりあえず怖いキャラを脱却したい(;><)

選手としては本当に充実していました。スーシー取れたし、総合で表彰台復活できたし、朝里は決勝行けたし、団体戦優勝しちゃったし☆☆☆けど、今年も札予突破は叶いませんでした。男子はいっぱい通過してて、道大会とか凄く楽しそうで、めっちゃめっちゃうらやましかった。泣きそうになるくらい悔しかった！来年こそは！！絶対通過！！！！！！

師匠としては、ちょっと悔いが残ります。一人は怪我ばかりで満足に滑れなかっただろうし、一人は一級に受からせてあげられなかった。見本が悪かったんだろうかって(・ω・)


来シーズン、新しい師匠の元で頑張るんだよ。

長くなっちゃったけど、一年間ありがとうございました！！もう紺野の家でみんなで暴れられないのかと思うと・・・寂しい。お餅美味しかったよ、ありがとう紺野。

では！！！！

Spur


紺野裕太郎



昨シーズンは結果が出せず残念なものになってしまいました。でもこんなシーズンからでも得られるものはあるのでしょうか(たぶん)。いったい何を得られたのか、そしてそれをこれからにどう生かすのか、オフシーズン中にじっくりと考えたいと思います。

無題

田中 美穂



今シーズンは、岩岳大会女子団体優勝！スーパーシード獲得!!しました!!!

4年という立場になりますが、次のシーズンもスキーできるだけ行って、札予突破目指してがんばります(^・ω・^)

そして、女子総合、どんどん上登って行きましょう♪
ゆくゆくはエレ女子の時代を作りあげたいです笑

二位じゃダメなんです

栩兼一将



スキーでは軸、体軸を長く見せられる選手ほどうまい。逆に軸の出ない、体の軸が折れてしまっている選手はあまりうまいとは言えない。

エレガントスキー部はサークルであるが、単なるお遊びサークルではない。学生全国大会の頂点を目指すというしっかりとした軸を持ったサークルである。この軸がぶれないからこそ、チームが丸となってここまで来れたのだと思う。これから執行部を担う後輩に向けては、代を重ねても軸のぶれることのないチームを作っていって欲しいと思います。今の強いエレガントスキー部の土台を築いてくださり、それを積み上げていく僕達執行部をサポートして下さった先輩方に感謝です。一年間ついてきてくれた後輩にも感謝！

執行部として(細かい反省は引継ぎ資料を参考に！)

執行部として自分が大事だと思っていたこと:部をまとめること、スキーを楽しむこと、部を楽しむこと。執行部が部をまとめるのはもちろんだが、スキーやサークルが楽しいと思えなければ意味がない。スキーを楽しもうと思うならもっとスキーがうまくなりたいといけないうし、サークルを楽しむにはもっとサークルに関わっていくべきだろう。どれも貪欲にもっと良くしたいと思う気持ちがあるとイイネ！

執行部として一番印象に残っているのは岩岳の表彰式。この大会でてっぺんを取ることを目標に一年間やってきたわけだが、本当にあと一步のところまで優勝に手が届かなかった。あの瞬間本当に頭が真っ白になった。あの時の事を思い出すと今でも涙が出る。トラウマ。うわああああああ！！

二年生以上は去年の悔しさを経験していると思うので、これをバネに全員精進して今年こそ絶対に、絶対に優勝旗を北海道に持って帰ろうぜ！！

個人として

前年のシュプールに書いたが、物事の上達には準備が必要不可欠だと思っている。その点では去年はしっかりシーズンまでにあらゆることの準備をしていたと思う。当然といえば当然だが、モチベーションがそれまでの二年間とはまったく違っていた。その上インラインやグレステンでいい感覚を得られたので今年はいける！と思えた。結果としては道大会出場、フィッシャーカップ優勝、スーシー獲得、団体表彰台という、入部時には考えられなかった充実感を味わえた。だが実際、満足はしていない。道大会では1点の重みを感じ、自分よりうまい人しかいないと知ることでもっとうまくなりたいと思えるようになったし、頭を使い続けないと成長し続けられないということもはっきりした。今シーズンはさらに上を目指したい。

師匠としては教えることの難しさを知った。もっとうまくなってやりたかった。去年の反省を生かして今

年はもっと厳しくいこうかな！？激ヤセするくらい！？

最後に、今後のエレガントスキー部のために、先輩たちの残してきた軌跡:シュプールが少しでも役に立ってくれることを願う。

昨シーズンの反省

衡田 直人



【トレ部】

トレ部長として、夏の間やってきたわけですが、トレーニングの内容を考えながらの半年は本当にあっという間でした。前期は走りこみを多めにしていたのでなかなかきつかったと思いますが、体幹部などのトレの種類を増やしていくうちに持久力や筋力のトレの負荷が減ってしまい、達成感のないものとなってしまった気がします。

今年のトレはきついとよくききますし、執行部はやる気のある人が多いので心配はしていません。思いつききつ、充実したトレにしてください。できるだけ顔を出すようにするので…

【個人】

今年は非常に悩んだシーズンだった。毎回スキーの後にスキーノートを書いていたが、大きな技術の改善が見られず非常に苦しく、滑っていても楽しくなかった。シーズン終わりに思い出したのは、滑りの目標を決めて滑ることも重要だが、滑りながらいろんな動きをして、たまたま得たいい感覚を自分の滑りに取り入れていった方が滑りを大きく変えられるということである。このことを忘れていた。しかもできないことをずっと悩むよりこの方がずっと楽しい。やっぱりスキーは楽しんでうまくなるものだと思った。

また、師匠としては弟子が満足するほどうまくさせてやれなかったのが悔やまれる。しかし、弟子の二人が岩岳であんなに悔しそうにしているのを見て少しうれしかったりもした。来年は必ずうまくなると思う。

昨シーズンの反省

牧野 文康

自分の考えた反省点は2つです。1つは恐らく多くの人が挙げていると思うけど、やっぱり岩岳で優勝出来なかったこと。そしてもう1つは弟子に十分な結果を出させてあげられなかったこと。

まず弟子については3人とも本人の満足出来る結果を出させてあげられなかったのが申し訳ない。3年生になって初めて師匠という立場を与えられ、戸惑いながらも、どの様にステップアップしていくのか自分の体験等を基に順序立てて教えていったつもりではあったけど、うまく伝わらなかった部分もある気がします。これが1つの反省点。来年は師匠として、しっかりと1本の中心となる芯の通った内容を貫けるように練習なりを考えなくてはと思いました。

岩岳については、正直言うと悔しい半面、後悔半面という感じです。悔しいっていうのは全力で本当に頑張ってる頑張ってる頑張ってる、それでも報われなかった時に初めて表れる感情なのではないかと、ふと思って。自分も終わった直後は本当に悔しいなんて思っていたけど、時間が経って少し冷静になってからどっちだっただろうと考えると、悔しいというよりも執行部の代で優勝できなかった事、そして自分のスキーに対する姿勢に、後悔をしているのではないかという気がしました。勿論練習中は自分なりに常に全力で取り組んできたつもりだったけど、実際大会がこういう結果に終わってしまって、個人の成績でも部の足を引張ったし。もっとやれる余地があったのではという後悔が今こうして浮かんでしまうのが1つの反省です。

でも、他の人はどう思っているか分かりませんが、大会中のあの1週間は優勝に向かって本当にみんながまとまっていたなど。そして、スキーとか学連とか執行部とか、積み重ねたものが全部出てくるような、熱くて濃い1週間だったなど勝手に感じています。特に最後は団体まで勝負が纏れて、その団体競技では自分達が出番を待つ間、信州をマクって優勝としか自分は考えていなかったし、実際上で順番を待ちながら先に出た信州Bチームを見ていたら見事転倒したし。あの時の頭の中はもう勝手に「団体で信州マクって劇的優勝！！」「神様はいる！！」で埋め尽くされてました、ホントに。結果は残念だったし、信州Bに勝てなかった時点で優勝も遠のいたと思って、あの時はかなりショックだったけど、あの状況、雰囲気を経験して強烈に残っている記憶は自分にとって貴重な経験になりました。あまり良い表現ではなかったかもしれないけど、そのくらい濃い時間を過ごしたなど、そう思っています。

最後に、こんな体験ができたのも今まで先輩達がエレを育ててきてくれたおかげだと思います。先輩方にも悔しい思いをさせてしまって申し訳ないです。でも、プレッシャーをかけるわけじゃないけど、今度こそ次の執行部が真ん中獲ってくると思います。

来年は嬉しかったって一杯書けるように頑張らしましょう。

シュプール

李 美侑

4年生のみなさん執行部お疲れ様でした。2年生、3年生のみなさん、こんな執行部についてきてくれてありがとう。OBの方々、私たちをサポートしてくださってありがとうございました。いま、執行部を終えて、ほっとしているという気持ちもありますが、3年生の特に冬では、生活の7割がエレで満たされていたので、とてもさみしいです。

私は、執行部では会計部をまかされていましたが、会計部の仕事は思っていた通り、楽でした。反省は総会などで話した通りなのでここには書きませんが、大きな失敗はしなかったか、したけど記憶から消しました。

執行部では毎週1回以上、特に議題のあるときには3、4回ミーティングを開き、紺野家のいつもの棚においてあるお菓子を食べながら、時々は紺野の手料理を食べながら、楽しく雑談をし、時々真面目にエレのためを考えて遅くまで話し合いをしていました。私たちが入部した年に完璧に思えた執行方針も、時の流れと部員数の増加とともに、改めて考え直さなければならない点もあり、新たな試みをしてみたりと、今と未来のエレの為に考え、話し合い、実行しなければならないことがたくさんはありませんでしたが、少しありました。師弟制度と、岩岳大会について決めなければならないときは、エレについて考えている時間と睡眠時間で24時間になっていました。夢の中でも考えていたかもしれません。1年間をふりかえると、たくさんの失敗と、いくつかの許されない失敗も思い出され、もっと頑張ることができたとも思いますが、私は過去に悩むタイプではないので、執行部としての1年間を楽しく過ごせたと満足しています。

昨シーズンは、初めて師匠となり、3人の弟子をもちました。京谷とのペアでの師匠は、実際にやってみると、最初感じた大きな不安と嫌悪感は不要だったと思います。ただ、自分の知識と技術には不安があったので、3年生ではそれまでよりたくさん勉強と練習をしました。しかし知識や技術よりも、弟子にそれをうまく伝えることや、弟子が理解しているのにできないときにどう対応すればよいか、などがとても難しかったと思います。また、弟子がスキーを好きになり、たくさん練習するようになるかが一番不安でした。私は自分の弟子を溺愛していますが、指導の方は厳しく、時にもっと厳しく行ったので、スキーが嫌いになるか、打たれ強くなるかのどちらかと思ったこともありました。しかし3人とも、もともと打たれ強く、入部当初よりもスキーを好きになってくれたようで、技術面でもそれなりに育ってくれました。1級を取らせてあげられなかったことは本当に悔しく思いますが、弟子がそれ以上に悔しがっていることに満足です。

最後に自分の技術についてですが、毎年のことながら悔いの残るものでした。一番最初の大会である札幌予選では、1種目目で転んで全然惜しくもなく通過できず、フィッシャーカップではひとつ目の種目を間違え、そしてあの忘れもしない、岩岳大会では、本選と決戦合わせて6種目も滑るチャンスがあるにもかかわらず、その半分の3種目で転ぶという大失態と、当然の結果としてのスーシー圏外の順位に、悔やんでも悔やみきれない思いです。挽回しようとした朝里大会でも、日を追うごとに順位を1つずつ落としていくという残念な結果に終わりました。1年間で確実にうまくなったと

いう自信はありますが、結果を出せない不甲斐なさに終わったシーズンでした。ただ、いい結果もありました。岩岳の個人戦が散々だった私は、こんな結果いらない、岩岳に出た意味なかった、とさえ思っていたので、女子団体の優勝は本当にとてもとてもうれしかったです。練習量も変更した自由の構成も個人の技術も、優勝できるレベルにあると自信はありましたが、こんなにあっさりとうまくいくとは思っていなかったなので、うれしくてうれしくてうれしかったです。

今シーズンもすべるぞ！

「spur」

第45代会長 落合 泰大

まずサ館係としての反省は1回遠征届けとバスの通行証を出し忘れました。すみません。今年は清水一人！がんばれ！

昨シーズンは個人としてもチームとしてもとても悔しかったシーズンであった。選考会に落ち、個人戦に出られず、団体戦に出られたのはとても良い経験になったが、チームとしてもあと1歩で優勝を逃した。今年はまだ悔しい思いはごめんだ。1年生もたくさん入り、今年は優勝を十分狙える、いや自分たちならできると信じている。もちろん優勝したが部長が出られなかったなんて格好の悪いことはできない。

自分よりも上手い人を抜かすためにはその人たちよりも当然努力しなければならない。そして1回の練習の質を上げないといけない。そのための1番の近道は上手い人の滑りのイメージを常にしっかり持つこと。そして実際の自分の滑りのイメージと自分の滑りの差を縮めることだと思う。執行部として、部長として、チームをまとめていき、個人戦の選手として岩岳大会優勝をこの目で表彰台の上から見られたらと思う。

最後にこの1年間忙しくなるだろうが、自分が上手くなることに貪欲になることを忘れず、この1年を楽しく過ごせることを願う。

2011-12 シーズン!!!

第45代副会長 一木 拓哉

去年の個人の最大の目標は技術選札幌予選突破だった。その目標は達成できたが、滑りに対しては全く満足できなかった。事実北海道予選では力を出し切っても予選突破に9点及ばず、岩岳では準決勝で失敗をした。

自分なりにシーズンが終わってから今まで、なぜこういうことになったのか考えたが、おそらくスキルの練習に関してもトレに関しても計画性がなかったからだと思う。オフシーズン、シーズンを通して、自分に何が足りないのか、目標突破のためには何をすべきなのかというのを深く考えなかったからだ。1シーズンを通しての長いスパンでの目標、札幌予選、道大会、岩岳、朝里などの大会の間の短いスパン、またはそれよりも短いスパンでの目標(順位などもそうだが、具体的に、これは直して、こんな滑りをしようてなかんじで)を立てて、計画的に練習していくべきだったと思う。

来年の目標は、道大会決勝に出場する！岩岳で優勝する！これをゆるぎない目標として、そのためには何をすべきなのか、常に考え、オフシーズンから2011-12シーズンだと思って気を引き締めてやっていきたい。

あとは部全体のことであるが、今書いたように目標は岩岳総合優勝(男子)である。(もちろん団体も)去年は最後の追い上げでも1位の信州大にわずかに及ばず、準優勝に終わってしまった。今大会を通じて思ったのが、やはり総合優勝は個人個人の成績で決まってしまうということ(当たり前だけど)。今大会では2、3年生(当時)一人一人が力を出し切れず、成績も伸びていなかったように思う。

来年は全員が確実に150位以内に入れるよう、出場者も出場できない者も個人個人が高いモチベーションを保てるよう、そしてなにより部員全員が楽しくスキーができるよう、執行部で協力し、(もちろん4年生、OBの方々や、後輩の力も必要です。ご協力よろしくお祈いします。)エレガントスキー部をよりよい、より強いチームにしていきたいと思う。

3年目

上原 壮登



2年目のシーズンでは、自分の立てた目標を達成することができなかった。特に、大会での順位の目標、2年目に到達しておきたかった技術のレベル、筋力である。来年に向けての課題も大会のビデオで自分の滑りを何度か見て、確認できたので、1日1日を大事にして、頑張っていきたい。

まず、1つ目に、今シーズンは、大回り、小回り、コブの種目に関係なく、自分の体重が板に乗せ続けられるポジションを常にとれるようにすること。2つ目に、板と雪面に一番近い、体の足裏の感覚を大切に、自分のポジションを感じながら滑ること。簡単で、地味に思えるこの二つは、一番大切な基本で、常に向上させていかなければいけないと思う。この2つを意識した上で、外足の重さが軽くなることなく、軸を意識して、内足を体からできるだけ遠くまで動かせるような感じの股関節と肩甲骨の使い方をできるようにしたい。

次に、筋力については、けがをしない体をつくること、スキーの技術を上げるための十分な筋力をつけること。2年目の全国岩岳大会の3週間前に膝の怪我をしてしまい、団体戦のメンバーの方には、迷惑をかけてしまった。個人戦に関しても、大会直前、十分な練習をしないで、大会にのぞむこととなってしまった。怪我をすると、スキー場に行ける日数も減り、本当に悔しかった。現在も、太ももの怪我をして、2週間、安静の状態になってしまった…。今年は、1、2年目で十分にやってこなかったウェイトをしっかりとやり、バランスの良い筋肉をつけて、シーズンを怪我なく過ごせるようにしたい。目標は、体重を10kg近く増やしたい。ウェイトをやる人は、ぜひ一緒にやりましょう！

次に、大会での目標は、1つ目に、道大会で準決勝に進み、上手い人と勝負すること。去年は、札予をギリギリで突破し、道大会に出ることができたが、手も足もでなかったけど、全日本の選手や憧れの選手と同じ大会に出て、最、スキーが上手くなり素直に思えたのは、本当に良かったし、今年、技術を伸ばす大きなモチベーションになると思う。頑張りたい！！

岩岳では、去年、男子総合2位と非常に悔しい思いをしたので、男子総合1位をとれるように、貢献したい！！

そして、最後に、今年は、学連の副会長になったので、こっちの仕事もしっかりやり遂げたい。

無題

佐藤幸



今シーズンは去年よりも上手になった気がします。
去年よりもたくさん滑った気がします。頑張りました。
いっぱい教えてくれて、先輩方、同期、どうもありがとうございます。
後輩もできて嬉しかったです。かわいいから。
ちょっとずつ分かることも増えてきてスキーが好きになれそうな気持です。
大会でも検定でも不甲斐なくて申しわけなくおもっていますが
飲み込みが遅いなりに自分のペースで上達していこうとおもいます。
スキーに関わることもそうじゃないこともできるだけいろいろと
吸収したいと思えるようになりました。いえい。楽しまなきや損。
せっかく執行部の学年だし。女の子増えたし。やせたいし。ほめられたいし。
せっかくだからスキー上手になりたいし。
2011年、日々頑張ります。
基本的に自分に甘々なので周りの人の力をかりてがんばります。
私の成長のために、みんなの協力が必要です。団結せよー。
これはお願いなのです。よろしくお願いします。

スキー大好き！

渋井 宏美



1年、2年とあっという間に過ぎて、もう3年生の執行部になってしまいました。

この2年間スキーをやってきて、もちろんすごく楽しかったし、充実していたけど、なんとなく満足できない自分がここにいる。そりゃ2年しかやってなくて満足してたら目標低すぎだけど、2年生っていう段階と考えるとなんか納得いかない。それはなんでかって言ったら、内面的な弱さだったり、技術不足だったり、クセがあったり、いろいろな原因はある。去年は教えてくれる師匠がいてくれて、とりあえず教えてもらうこと、目の前のことを一生懸命やろうって思ってた。だけど、弱点は常に意識しないと絶対直らないし、今年は教える立場にもなるし、これまでと意識を変えて、もっと能動的に動かなきゃなあって思った。多分こんなことみんな当然のようにやってるかもしれないけど、去年の自分にはできないことで、去年の自分を踏まえてはじめて今年はこうしようって思えることなんだろう。だから焦ったりはしないし、焦ってる余裕があったらなにかほかのことをすべきなんだろうな。だから今年は自分と向き合って、シーズン入ったら雪とも向き合って、まっすぐ板に乗って雪と仲良く気持ちよく滑れるようになろう。具体的な目標はいらない。結果はただのオマケ。天邪鬼な私は目標を立てるとヤル気がなくなっちゃうから。

今年は、今までよりももっともっとひたすらひたむきに、スキーをやりたいと思うのです☆

部としては、去年の岩岳女子総合7位、団体優勝っていうのを踏まえて、自分の技術をもっとも一っと向上させて、そしてそれを下の代へ還元して、総合の順位を表彰台の一番上にできる限り近づきたいし、団体は連覇しかない。なんか、がつついてるように聞こえるかもだけど、スキーは所詮個人競技で、個人のモチベーションがいかに高く保てるかが大事だから、みんなには自分のために頑張ってもらって、その結果オマケでいい成績が取れるってのが理想。


無題

下条 啓文

エレに入ってから早くも2年・・・ついに執行部です。

自分は会計なので、部のお金が何に使われているのかをきちんと伝える事を目標に、無駄な出費は抑えたいと思います。

スキーでは去年は色々ありました。一番大きなことは岩岳大会にCチーム(エレB)として出場させてもらったことです。部員が多くなった事や2年生にも経験を積ませようという理由でエレBは出来ました。正直、エレAとエレBで出るかは非常に悩みました。しかし、エレBとしてサポートメインの選手として岩岳に出させてもらうことにしました。理由は、シーズンに入る前の実力から考えて自分はエレAを選んでも選手として出られる可能性が低いことや、選手として出て経験を積もうと考えたからです。このことはシーズン前に決めなければならない事なので、今の2年生は特に考えてほしいことです。自分はエレBとして出場して良くも悪くもあつたと思います。シーズン入ってからのエレAで選手として出ようとする人とエレBのモチベーションは大分差があつたと思います。確かにエレAの人の実力は伸びていました。そして、選考会でもエレAとエレBの実力の差は歴然でした。選考会後は大会に出ても恥じない滑りをしよう、所詮エレBか、と思われたくないという一心で練習していたつもりです。しかし実際、練習していて肩身が狭い思いでした。なんか申し訳ないようなそんな感じです。実際の大会では、サポートは大変で夜遅くかかることもありましたが、エレAに優勝して欲しい気持ちで頑張りました。やっぱり出るからには自分も頑張りたいという気持ちもありました。決勝まで運よく残る事は出来ましたが、決勝の総滑でゴール直前にして転んだのはすごく悔しかったです。来年こそはと思いました。2年生に言いたいことはエレAでもエレBでも大切なのはモチベーションを何処まで保てるかという事です。大会にただ出るだけでは意味はないです。最後に、自分の今年の目標はエレAとして個人150位以内に入って岩岳総合優勝に貢献することです。




昨シーズンは、いろんな意味で1年目のシーズンとは違った。大学が忙しく、平日あまりスキーに行けなかったり、合宿を欠席したりせざるを得なかった。だからといって充実していなかったわけじゃない。目標だった札幌予選突破、岩岳スーパーシード獲得は達成できたし、なんといっても北海道予選・テクコンに出場したことが自分のスキー観を変えた。全日本レベルの選手が多く出場する大会は、いままで経験してきた大会とは雰囲気は全く違うものだった。うまく言葉に表すことができないけど、これが技術選の舞台なんだなって感じがした。直に滑りを見ることでレベル差を痛感したし、こういった大会でもっと上を目指したいという気持ちが強くなった。

また、部内では教える側の立場となった。衡田さんと持った弟子2人はよく頑張っていてきてくれたと思う。大会や検定の結果には満足していないかも知れないけど、スキー自体はかなり上達しているので自信を持って欲しい。


人にスキーを教えることは、自分のためにもなったと思う。自分ができていない部分に気付いたり、スキーの知識を頭の中で整理できたり。自分は頭で考えるより身体で覚える派だったので、少し理論的にスキーを考えられるようになった・・・気がする。

あとは岩岳で優勝・・・できていればこれ以上ないシーズンだった。準優勝できたということはすごいことだ。しかしもう少しで優勝できたと考えるとやはり悔しい。次の岩岳は選手として貢献できるか現時点ではわからない、しかし部員へのアドバイスなど自分にできることはやっていきたい。

いろんな事があったシーズンだけど過ぎるのはあつという間だった。1年目のシーズンよりかなり短く感じる。今年はもっと短く感じると思う。なので、今まで以上に一本一本を大事に滑ることを心がけ、良いシーズンにしたい。



去年の反省は的確に動くことができなかったこと、股関節が固かったことです。来年は上記のことを改善して執行部の仕事にも責任を持って取り組んでいきたいと思います。



二年目のシーズンだった今年は、あまり満足のいくシーズンではなかった。今年の大きな目標だった「岩岳個人戦出場」を達成できなかったからだ。素晴らしい方に師匠についていただいて指導していただいたのに、本当に申し訳ないと思う。でも今思うと、選考会落選によって、いかに自分が下手なのかということを改めて考えさせられたので、それはそれでプラスになった気もする。ビデオも購入して自分の滑りをよく見るようにもなった。それでも、まだまだ同期のライバル達や先輩との差はなかなか埋まらない。オフシーズン中でも差は埋められると思っているので、トレをしっかりやっていきたい。

また、スキーとは関係ないが新歓部長として活動した新歓では一年生(現二年)が計17人も入ってくれたことは嬉しかった。まあ3人辞めてしまったが。それと、今年は後輩とも仲良くやってこれたと思うので、この点は満足だ。

三年目の今年は、僕たちの代が執行部である。もう執行部か、この間入部したばかりのような気がするのにな、なんてたまに考えたりもする。今までは先輩方に頼りきりで、大分お世話になってきた。今年は執行部として、先輩方にお世話になった事を下に返していきたい。そして、来年の岩岳での表彰台のてっぺんに登れたら何も言うことはない。岩岳で優勝する。そのためには何が必要なのか、それを基盤に、執行部として部を運営していきたい。

最近、エレとスキーのことしか考えてないな。さっきもスキーの映像見てたし。あ、課題やってない……

去年の反省と今の心持ち

山本 耕平

~~~~~

そういえば、去年のシュプールはあえてあっさり書こうとした記憶がある。それは、2年目で真剣な文章を書くのが少し恥ずかしかったから、というよく分からない理由だった。

そのときの気持ちをまるまる忘れてしまったわけではないが、一年経った今では全てを思い出すことはできなかった。

それは恐らく、この一年で自分の考えが少なからず変わったからだと思う。やはり今年は、後でシュプールを見返せば当時の気持ちがわかるようにしっかりと文章を残そうと決めた。そうすれば、来年には自分がどう変わったのかがはっきりとわかる気がする。

昨シーズンについて振り返ってみると、自分ではやる気十分なつもりだったが、周りから見ればもっと頑張れよと言われてもおかしくない姿勢だったと思う。これが一番の反省点である。

皆さんも知っての通り、実際にそうした大会の経験不足や練習不足が祟ったミスは重要な大会で出ているため、このことは重く受け止めなければならない。

今年はますます忙しくなるのだろうが、3年目なので悔いの残らないように努力していく。

そして、岩岳総合優勝に貢献したい。

技術について振り返ってみると、自分はコブが弱点として目立ちすぎているが、それだけではなく要するにショート系が苦手だという分析で間違いない。大回り(一番は中回り)は大好きでいつも勝手にイメトレしているのだが、よく考えればショート系はそれに含まれていない。さらには、切り替えのイメトレなんかはいつも決まった向きだけである。

もう少し苦手分野にも意識的に目を向けるべきだと気づいた今年こそは、オフシーズンの今からもイメージ作りをして弱点を克服したい。シーズン中のモチベーションを来シーズンまで繋げられれば、半年後に実を結ぶと信じている。

## 充実した1年間を振り返って

青木 航太郎



北海道に来たからにはやっぱスキーやろ！

こういう衝動が僕をこのスキー部に入れてくれました(もちろん新歓を先輩方が一生懸命して頂いたおかげでもあります)。まずそういう衝動を幼いうちに作り上げてくれた両親に感謝です。ほんとに子供の時はスキーが嫌いでしたが、なんかよくわからんけどあの時の土台がプラスに働いてくれました。

入部して徐々にトレにも慣れ、同期とも仲良くなり、また先輩も気軽に声をかけてくれはり、エレが楽しくなってきました。しかし、その半面、大分拘束される時間が多くなり自分のしたいことになかなか時間を割けられなくなり、夏の一時、辞めようかなと思いました。

ですが、やっぱりまだ冬を迎えてなく、まともに滑ってもないのに辞めるというのはもったいないし絶対に後悔すると思い、せめてこの1シーズンだけは本気でトレして、本気で滑って全てが終わってから辞めるか辞めないか判断しようと思いました。

そう決意し新学期を迎え、自主トレの量を増やし、シーズンに備えました。

そして11月11日。

待ちに待った、スキー生活が始まりました。シーズンの目標は“1級を取ること”と“岩岳新人戦で30位以内に入ること”と“滑走日数100日”でした。

岩岳では、自分の師匠が健闘していて自分もそれに続きたかったのですが……。新人戦の最後の種目である総滑を終え、自分の点数をみた瞬間、なんかポカン(°)となって何も考えられなくなりました。自分の不甲斐無さに人目を憚らず大泣きしてしまった……。ほんとにあの時は死にたかった。自分の絶対的な力不足を感じました。

ここまで読んでいたら暗すぎて鬱な気分になっちゃうんで(苦笑)、明るい話も。

目標の1つであった1級を取得できたのはうれしかったです。早めに検定を受けに行ってよかったあ。また春練を通して自分の悪い癖(折れやスタンス、構え等)をある程度治せたのは来シーズンに向けて収穫が大きいと思います。滑走日数も100日超えやし♪

そして何より、1シーズンが終わっても全くスキーに飽きてへんし嫌いになってない、ていうかむしろ入部した時よりもスキーが好きになっているのが嬉しいです！！！！

楽しみ方って人それぞれあると思うのですが、僕はめちゃくちゃこの1シーズンが楽しく過ごせ、そしてスキーの技術も向上し、ほんとによかった！

スキー技術が上がったのは一重に先輩方の適切かつ丁寧なアドバイスのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



そして何より、毎回の公式練で事あるごとに自分のやりたい練習を入れてもらい、出来なかった部分を僕が完璧に理解するまで辛抱強く教えて下さった、衡田さんと貴之さんの両師匠に心からお礼を申し上げます。僕の覚えが悪いせいで、ゲレンデにいれば常に一緒に滑ってもらい、御自分達の自主練の時間を割いてまで(個人戦選考会や岩岳の直前まで!)教えて下さり、本当にありがとうございました!(>\_<)

あとは個性的なメンバーしかいない同期のおかげで楽しく毎日送れました。ありがと～。して、まだよろしく(笑)

今年度も昨年度以上に積極的にエレの活動に関わっていき、一生に一度しかないキャンパスライフを最高のものにできるようにがんばりたいな! ☆おわり★

PS 今年の目標は TOEIC で良い点取ることと時事検定で2級を取ることです!

あとは・・・色んなうまい人に去年以上に積極的に関わってご教授承り、樽予か札予を突破して道大会に行くこと!!!!これ重要!めっちゃ大事!!もちろん岩岳も頑張る。

あとは幻の至宝とまで言われている JK イントラを・・・(以下略。

## 今になって、わかったこと

遠藤 賢司



自分は東北の出身ではあるものの、エレに入るまでスキー経験はほぼ皆無であり、入部したての頃はブルークボーゲンすらままならないレベルだった。また、今までスポーツに本気で打ち込んだことがなく、どちらかといえば音楽に多くの時間を注いできた。

でも、今では心からスキーが好きで、今までになく真剣に取り組んでいる。こんなにスキーに真剣になれたのも、親切に指導して下さった師匠の石橋さんや田中さん、そして、たまに滑りをみてくれて指導してくれた多くの先輩たちのおかげである。皆さん、本当にありがとうございます。

ここで、自分の滑りを振り返ってみよう。シーズン初めの頃は、とにかくパラレルターンを体得することに必死だった。しかし、筋力的な面から考えても左右の差が激しく、正しいパラレルターンに近づけるのに相当の時間を要した。さらに、ショートターンやカービングスキーに関しても、スキー滑走日数は他の同学年の仲間よりも多いほうなのに、上達に時間がかかってしまった。また、自分は上がり症で、本番になると体が硬直してしまい自分本来の滑りができず、岩岳・朝里大会では非常に悔しい思いをした。

大会が終わってからは、その悔しさからか、イメージトレーニングを今まで以上にするようになり、積極的に上手い人の滑りを雑誌や映像でみるようにした。そして、どんな時でも滑るごとに師匠から指摘されてきたことを思い出し、体で表現することに努めた。

すると、ある時から滑りの質が変わりはじめてきた。トントン拍子で2級、1級に合格し、スキーというものがもっと好きになってきた。この境地に至るまでは多くの時間を費やしたが、いま頭の中にあるのは「もっとスキーを上手になりたい」という強い向上心である。

コブや左右差、ストックワークなどの課題は多いが、次のシーズンでは確実に実力の向上をすべく、練習に真正面から取り組んで行きたい。

あと、HPの編集やカーオーナーとしての仕事も頑張って、エレに貢献したいと思う。

## SPUR

加島 康平



エレガントスキー部に入部してからの1年間は非常に早かった。振り返れば、目標としてきたことは何も達成できずに終わった悔しいシーズンだった。岩岳でポイントをとる、1級をとる、どちらも叶わずじまいに終わってしまった。とても不甲斐なく、納得のいくシーズンだったとはとても言えないが、このシーズンで学んだこともたくさんあった。特に、スキーの一本の滑りに対する意識がシーズン当初と比べ変わった気がする。正直、入った時はスキーが特別好きというわけではなかったので、シーズン当初は楽しければ、いいや的な考えがあった。だから、それほど上手になりたいなどの向上心に欠けていたように今になって思える。しかし、シーズンを経験した今はスキーが好きだし、上手になりたいとも思ってるし、楽しみたいとも思ってる。この気持ちを大切にして、来シーズンは頑張りたいと思う。取りあえず、来シーズンは早いこと、1級とって同期に追いつき、岩岳でも良い成績を残したい。そして同期には負けたくない！そして、スキーを楽しみたい！！

## エレを通して

金田康裕

1年前ひよんなことから入ったサークルだったが、エレというサークルはとても楽しく、強く、そして部活であった。最初はエレのトレのガチさやかかる金のでかさにびっくりしていたが、今はほんとにエレに入ってよかったなーって思う。エレの活動は結構忙しいし、バイトも勉強もしなくちゃいけないけど、ふと暇なとき1年間を振り返るとエレをしていてとても充実していたなーと感じる。今年は新1年生がたくさん入って、よりエレは大きな部活となり、今年こそは優勝しようともっと盛り上がるだろう。上手い先輩はたくさんいるし、経験者の1年生もたくさん入ったが、しっかり練習して負けないように頑張りたい。

——その前に後期に支障をきたさないよう目標を立てます。「前期で余裕のフル単。」

## これから

熊谷 綾華

なんだか、どうしようもないことばかり考えていたせいで一年間を無駄にしてしまった気がします。シーズンの途中まではスキーが楽しいと思えなかったし、楽しいと思えてからも結局あまり練習に打ち込むことなく春を迎えてしまいました。

来シーズン以降、ちゃんと結果を残すには、このサボり癖をなんとかしないといけない気がします。とりあえず部屋から出よう。

来シーズンの岩岳の目標は、個人戦で50位以内に入ることです。

そのためには

- ・授業は毎回ちゃんと出る。
- ・スキー行こうかなと思ったら真っ先に行く。自分の中で撤回しない。
- ・先輩方に積極的に教えてもらいに行く。
- ・卑屈にならない。
- ・ぐだぐだしてる暇があったら勉強する。練習する。走る。

とりあえず、冬までにそれなりに規則正しく、学生らしい生活を送られるようにしたいです。そうしたら継続的に努力する力もつく気がする。

## 1 年を振り返って

古賀瑞希

大学に入ってとても充実した1年になりました。もともとエレの新歓に行った理由はホームシックを紛らわすためにさやに連れて行かされただけでした。でもエレの雰囲気其乐しくて、歴史に残るような悲惨な新歓スキーでの滑りをして、先輩方はやさしく指導してくれて先輩方みたいに滑りたい！と思って入部を決めました。

スキーに関しては岩岳でポイント取れなかったし、1級も程遠かったので課題はいっぱい残りました。朝里のプルーク(プルークではないけど)だけは直前の師匠の指導のおかげでいい順位でした♪今年度は技術を上げて、結果を残したいです。

1年を通して変なキャラになってしまったのが悔しいですが、エレに入ってたくさんの人に出会って、今思うとエレに入らなかったら中身のない1年間を過ごしてただろうと思います。でも、2年生になったので同期(と先輩)にいじめられないで先輩らしくなりたいと思います。

## Spur

小沼 義季

一年間をエレで過ごして思ったことは、エレに入って良かったなあということである。

入学したころは他の部活と迷ったりもしたが、もともと部活にしる遊びにしる大学でウィンタースポーツをしたいと思っていたので、せっかく北海道に来たのだから本格的にスキーをやってみようと思ってエレに入った。思っていたよりもトレがきつくて驚いたこともあったが、自分としては中途半端にやるのは嫌だったので、ちゃんとしていることに帰って安心した。シーズンに入ってから空いている時間にはスキー場に行ってスキーをして、それ以外の時もスキーのことばかり考えていて、毎日が充実している日々だった。

と、感想はここまでにして、今シーズンのスキーについて振り返ってみたいと思う。去年の新歓コンパのときに、岩岳の新人戦で入賞することを目標に掲げて、オフシーズンのトレのときからそれを意識して練習に取り組んだ。結果的にはその目標を達成することができたので、それを目標に掲げたことはいいことだったと思う。

反省点としては、バイトを始めるのが遅くてシーズンにかぶってしまい、滑走日数が少なくなってしまったことが悔やまれる。一月にいたっては滑走日数よりもバイトの勤務日数のほうが多かった。一年生はこんなことにはならないように気をつけてください。

最後に、今年は目標を言う機会がなかったので、ここで掲げておこうと思う。今年の目標は、個人戦の枠を取ること、そして少しでも多くのポイントを取ること。これが岩岳の目標で、その他に、テクニカルを受けること。小樽予選を通過して北海道予選に出場すること。朝里大会の決勝に出て、北

大や他大の2年生に勝つこと。が今年の目標である。

今年是一年間の経験があってシーズンの流れが分かるので、その分目標も多くなってしまったが、目標にあげたからには全部達成する気持ちでやろうと思う。頑張りますので暖かい目で見守ってください。よろしくお願いします。

シュプール

清水 翼



今シーズンの反省としては、やはり怪我をしてしまったことが一番悔やまれる。

結局一級も取れず、後悔が多く残ってしまったシーズンだった。

来年は怪我などで言い訳を作らないように、あわよくば言い訳の必要がないようにしたい

Spur

杉山 恒太



エレに入ったのは、大学に入って今までとは違う何かをしてみたいと思い、一番やりたいと思ったのがスキーだったからだ。いざ入ってみると、やはり出費のかさむ部活で、お金を稼ぐのにも相当力を入れなければならず、自分の思っていたよりもあまりスキーに行けなかった。そして1級をとり損ねてしまったことも残念だった。自分の代のメンバーは個性豊かな人が多く、みんないつも楽しそうに過ごしている。スキーは基本的に個人競技で、団体競技もあるとはいえ、2本のスキー板を操作するのは一人の人間である。でも、大会で勝ち進んでいくことにおいて、一番重要なのはチーム力であるとこの1年間で感じた。新1年生も加わり、エレガントスキー部というチームが今年どのようなか楽しみだ。

## シュプール

鈴木 紗也



エレに入って同学年に恵まれ、素晴らしい先輩たちとも出会えて、すごく楽しい1年を過ごすことができました。スキー初心者で、しかも飲み込みも遅い私を見捨てずに指導して下さった師匠をはじめ、先輩方には大感謝です。いろいろ助けてくれた現2年のみんなにもありがとうって言いたいです。

シーズンインした頃はスキーが怖くて難しくて、楽しいなんて到底思えませんでした。なんで入っちゃったんだろうとか思ったけど、今は続けて正解だったなと思います。

岩岳で団体に出させてもらったことはすごくいい経験になりました。たくさん迷惑かけてごめんなさい。団体だけじゃなくて、この1年間で今までにない経験がいっぱいできました。

エレに入ってよかったなーって思います。去年は体調不良でトレや公式練を欠席してしまうことがあったので、体調管理は去年よりしっかりしたいです。

## シュプール

宝居 和希



つれづれなるままに、ひぐらし、パソコンに向かいて、シュプールなるものを書く。吾輩はパパである。名前はまだない。

まず第一に、シュプールとは何なのか、そこから始めなければならぬだろう。ある人曰く、「この1年の自分のスキーシーズンがどんなだったかを振り返って」とのことだった。つまりところシュプールとは歴史なのだろうか。そう、考える。

かの有名な猫曰く、『人間の歴史は肉の歴史にあらず、骨の歴史にあらず、血の歴史にあらず、単に衣服の歴史と申したいくらいだ。』とある。つまり私は、衣服の歴史を語ればよいのだろうか。ならばシーズン前の早期予約会での、スキーウェア選びでのことなどを僭越ながら語ることにしよう。

前段階、つまりところ受注会前の相談では、安いほうのウェアでいいだろうということになっていた。しかし受注会にて、フェニックスの店員さんに口説かれ、「北海道の冬は厳しいから、少し高くてもいい素材のものを買おう」ということになった。

今にして思えば、正解だったと思ふ。藻岩の冬はかなり厳しい。しかもリフトがくそ遅くてフードもない。それに加え公式連は基本昼～夜であるから、かなり冷え込む。今2年がきているウェアはかなり保温性に優れ、北海道の冬もめじゃない。1年目は何かと出費のかさむ時期ではあるが、悔いの残らないシーズンにするためにも、よいものを買うべきであると考え。

次にきめられたのが色である。これにはかなりの議論が交わされた。大会で目立つのはどんな色

か、先輩方や他のチームとかぶっていないかなど、小1時間話し合っていた覚えがある。最終的に、水色、黄緑、その他[忘れた]、の三色に分かれ、決選投票を行った。黄緑優勢に見えたが、なぜか決まらず、時間をおいて再投票。結果裏切りや寝返りもあり、水色が勝利し、現在に至る。まあある先輩方は「水色ってなんかうまい人が着てる感じやな」とおっしゃられていたし、これでよかったのかもしれないが、宿敵信○大学と色がかぶっていたのは驚きだった。

まあ何にしても、衣服選びとは、時には悲しみ、時には笑いを生み出す未知の世界ではあるが、シェイクスピア曰く、『今が最悪と言える間は最悪ではない』のだ。精一杯悩んでもらいたい。そして私は今日も人生に迷うのである。

## Spur を振り返って

竹原 豊裕




「北海道来たからにはスキーせな損やろ！」って思ったのがすべての始まりで、縁あってこの部活に入ることに。修学旅行でしかやったことがないほどスキー初心者だったのに、丁寧に教えていただいた先輩方のおかげで、結果的には岩岳の新人戦で、微力ながらチームに貢献できた。新人戦選考会で現実を突き付けられ、その悔しさを胸に、春休みに毎日のようにゲレンデに行き、がむしゃらに練習した思い出がふと浮かんでくる。でも正直、まさかここまでスキーを好きになるとは思ってもいなかった。

シーズンの目標は、1級をとること、だったが、あと1歩及ばず。その点では、悔いの残るシーズンだった。来シーズンは、1級をとるのは当然として、目標は岩岳個人戦出場。「誰よりも努力したという自信はある」と言えるように頑張りたい。

## シュプール

多田明央




まず今シーズンは、やり残しの多いシーズンになってしまったと思う。シーズン序盤は滑りのイメージが捉えづらく感じたし、なかなかイメージ通りに体を動かすことができなかった。ゲレンデ以外の場所でも、自分の体の動かし方の発見をシーズン中にもっとできればよかった。また、スキー技術の向上に対する積極性が足りなかったと思う。せっかくなまい人たちがたくさんいる環境にあるのに、活かしきれなかった。少し技術が向上した際の、もう一歩先のステップアップが足りなかったように感じる。

来シーズンの課題は多いが、一つ一つ取り組んでいきたい。

## 初めてのスキーシーズンを振り返って

梁義 智昭



人生初めて経験したスキーシーズンは楽しい思い出もあり、悔しい思い出もあるシーズンでした。まず、素晴らしい雰囲気の中で優しく面白くて素敵な先輩たちとそして個性の強い同期たちと一緒にスキー、トレイ、合宿、各種イベントなどができて良かったです。1年間やってきて、この仲間たちだと4年間、いくら厳しいことがあっても乗り越えられ、続けて行けると思いました。だが、オンシーズンになってからの自分のスキーに向いてのメンタルに関しては色々反省するところが多かったし、後悔しています。来シーズンは自分に向けて、後悔のないシーズンになるように頑張ります。